

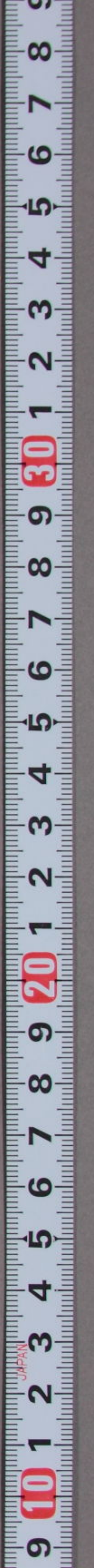


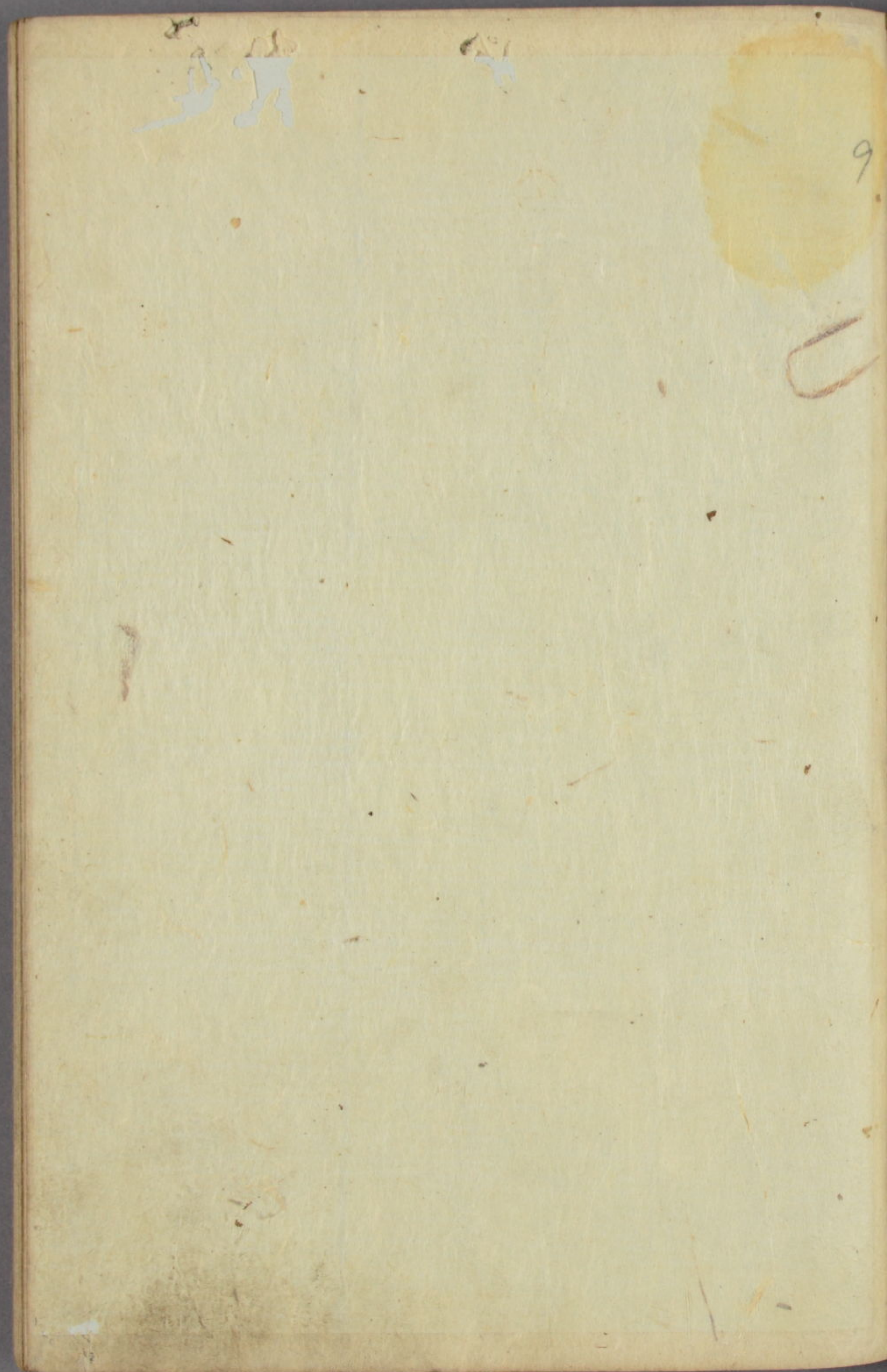
新板  
於佐船  
繪入

源氏物語

十終

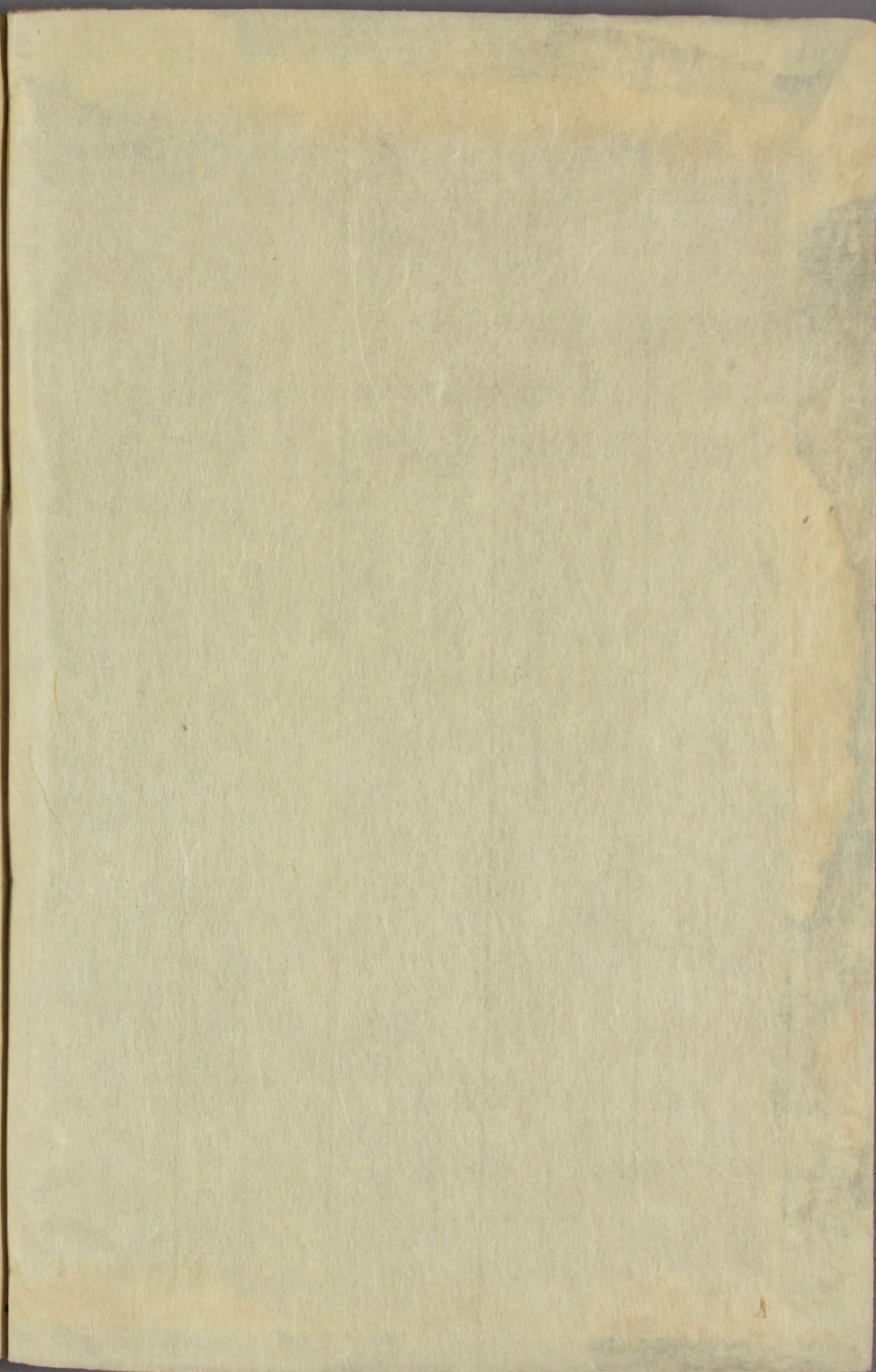
伊地知文庫  
文庫20  
397  
5





9

U



おされ源氏且 宇治十帖

うしむめ

志あふもそと

あけぬまき

さよこひ

屋とらふ

あつむを

ういせぬ

かけろふ

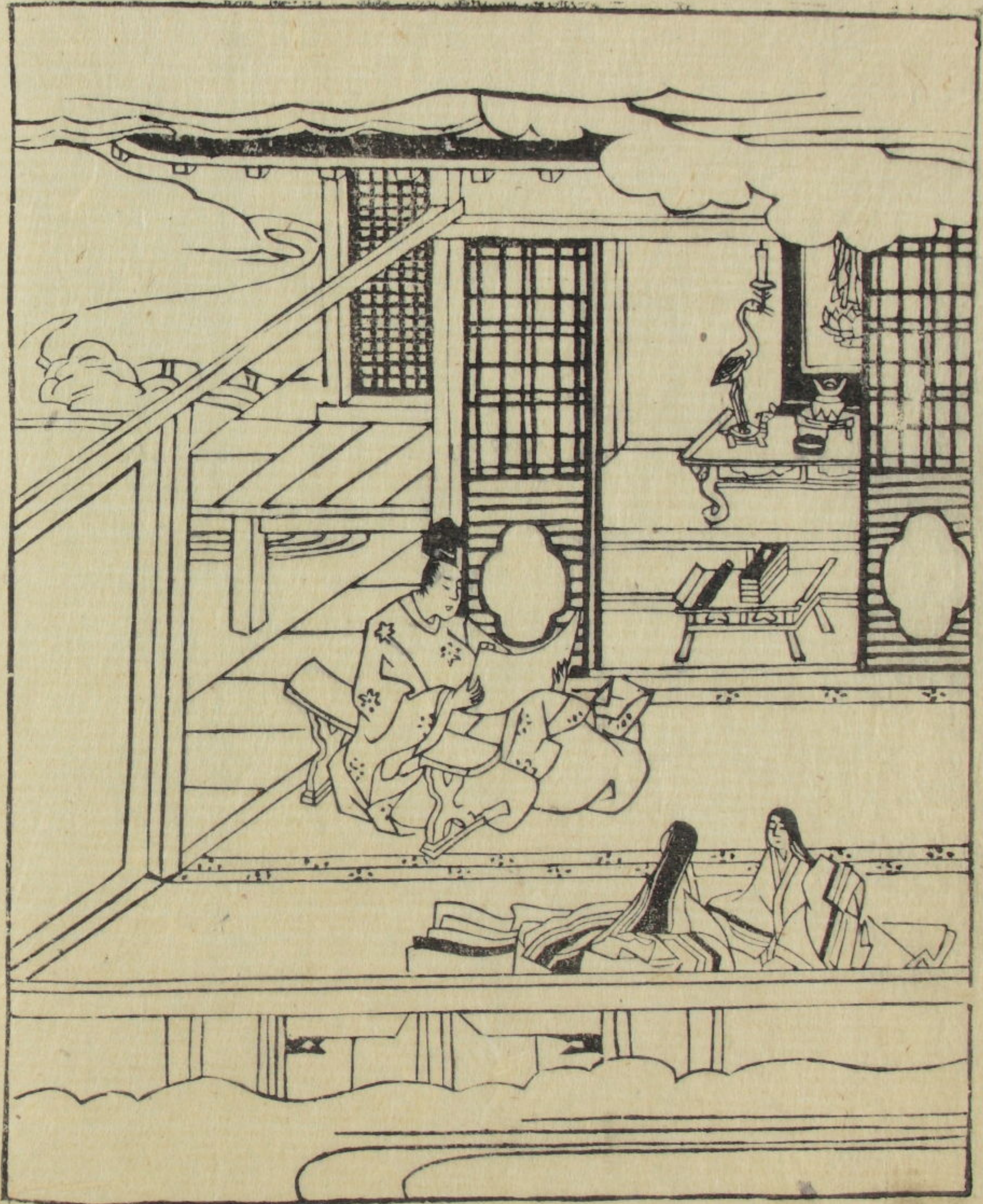
よがむらひ

ゆあはらうきけり

伊地知氏書冊

うしむめ ろろろろろろろろ

入のまよひにひらけりて人あはしめさるれば  
 大層のむすめあそびしるめさるれば  
 まの世物とてぬるをむかひにけり  
 くらとゆうらんまきとて奉見せり  
 まの世物にけりてけりてけりて  
 まうてけりてをえりてたてまつるは父  
 まうてけりてけりてけりてけりて  
 まらふ世にけりてけりてけりて  
 まらふ世にけりてけりてけりて  
 まらふ世にけりてけりてけりて



池乃水きぬるるるる

打千代はつとていふは

かりれらぬ世にたらしめられん

<sup>あま</sup>いづれかたしとていふは

いづれかたしとていふは

いづれかたしとていふは

いづれかたしとていふは

あまのいづれかたしとていふは

あまのいづれかたしとていふは

あまのいづれかたしとていふは

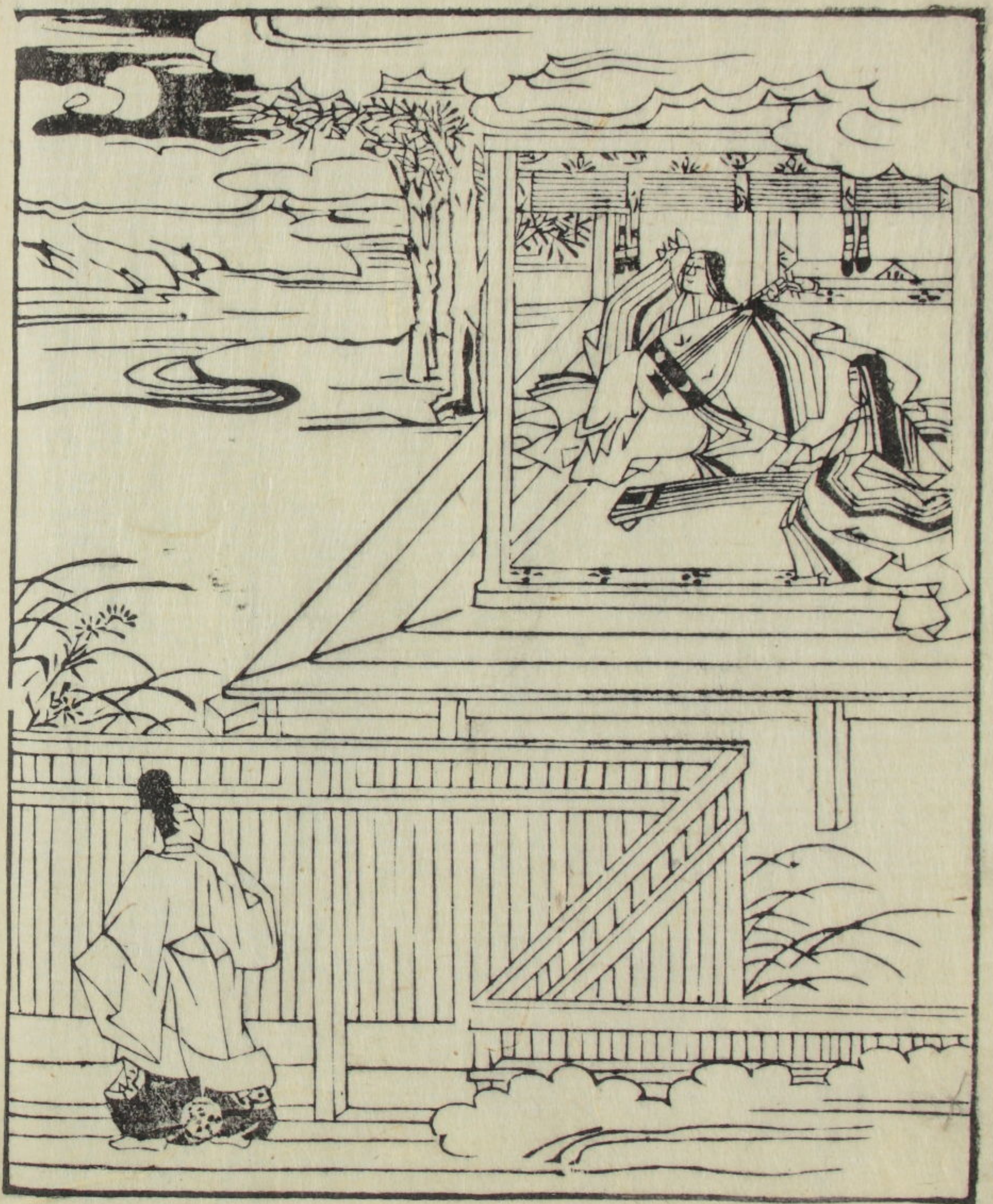
あまのいづれかたしとていふは



定路に書きたるの事  
 を午のたのめりて  
 申すに申すに申すに  
 けりしに申すに申すに  
 冷泉院の事申すに  
 一海に申すに申すに  
 と申すに申すに申すに  
 申すに申すに申すに  
 らの事申すに申すに  
 かゝる事申すに申すに  
 申すに申すに申すに



かりのいふそのせんはるぬひうらつひのあさ  
 りしのかげにうねまふまじいゆちわ  
 ちかむけし弁ねまか身せいのすい  
 下はあもあわわかくせんうらね  
 らぬれは思ひくさむさひんさ  
 ありまもといひ弁のいあのと  
 びすちほく考れむささうりあ  
 らしとといひさかたゆりなれ人  
 ちまびらうらさそなたら  
 期あけのうらさた  
 ちまのうらさた



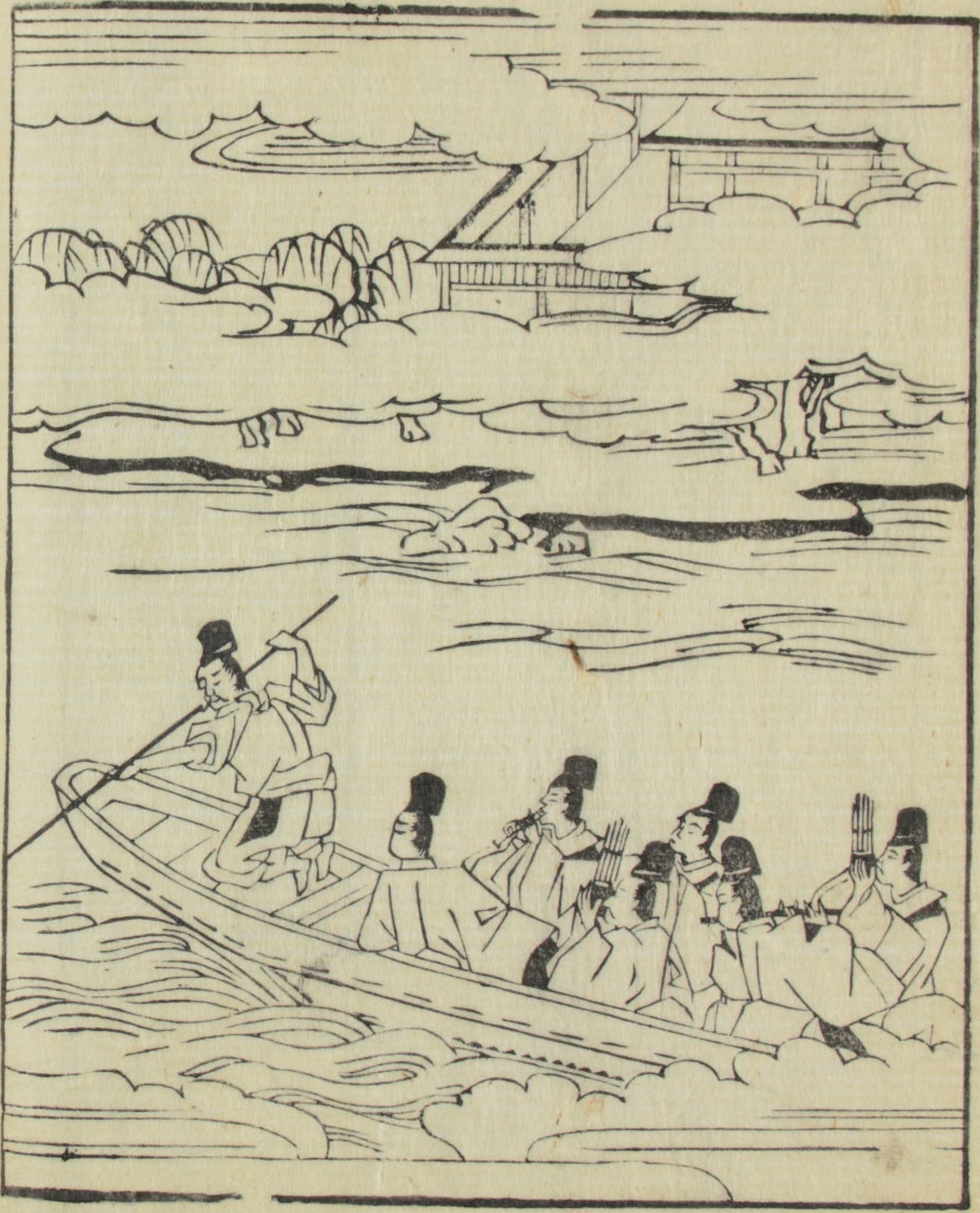
唯  
 其れをる千ねのわけらがむきり  
 いしぬづつとらつあつらふ  
 うしひれちくそくたをせら  
 うりのこげくー神をわあ  
 けくろくを路の川あこあゆ  
 とげくや神をくーく  
 あくゆむくあれき音にわらう  
 まのるくよとせしうくあふの  
 うのおの傍にわらうくあふ  
 うらうあつらふくあつらふの  
 うよ十月廿二日の此うらうく





Handwritten text in a cursive script, likely a list or entries. The text is written vertically and includes various characters and symbols, possibly representing names or specific items.

Handwritten text in a cursive script, continuing the list or entries from the previous page. The text is written vertically and includes various characters and symbols, possibly representing names or specific items.



四世一おせんくまのうら

よらけのやまのうら  
 ちかよのうら  
 あかよのうら  
 かんよのうら  
 むらよのうら  
 けいよのうら

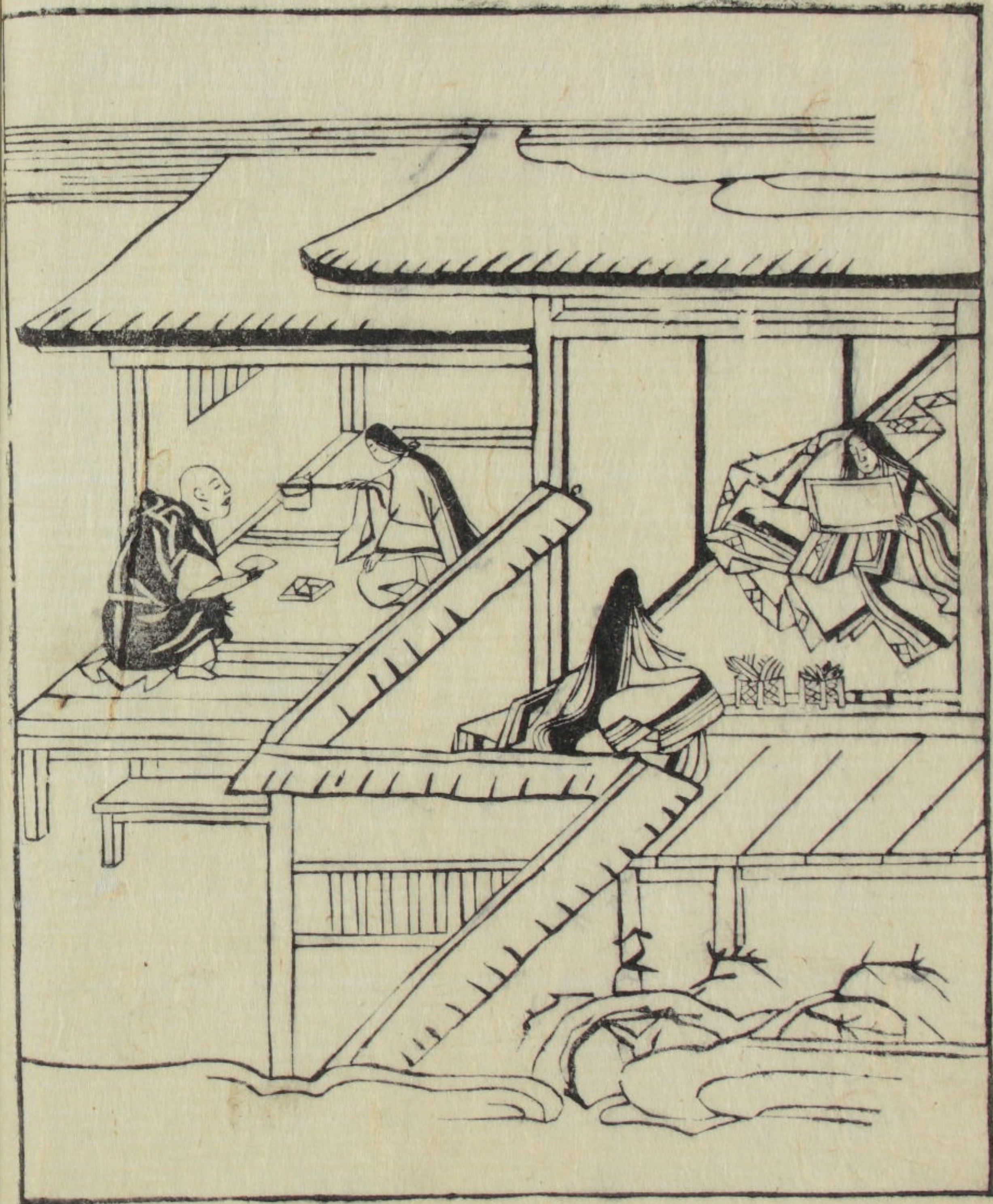
あきよのうら  
 ちかよのうら  
 あかよのうら  
 かんよのうら  
 むらよのうら  
 けいよのうら

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written in a fluid, connected style across approximately 15 lines.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a fluid, connected style across approximately 15 lines.







ちま

若くはりておのりていひまうしうは  
きしあやせしきのみまうしうは

若くはりておのりていひまうしうは  
はらうしあやせしきのみまうしうは

若くはりておのりていひまうしうは  
はらうしあやせしきのみまうしうは

若くはりておのりていひまうしうは  
はらうしあやせしきのみまうしうは

若くはりておのりていひまうしうは  
はらうしあやせしきのみまうしうは

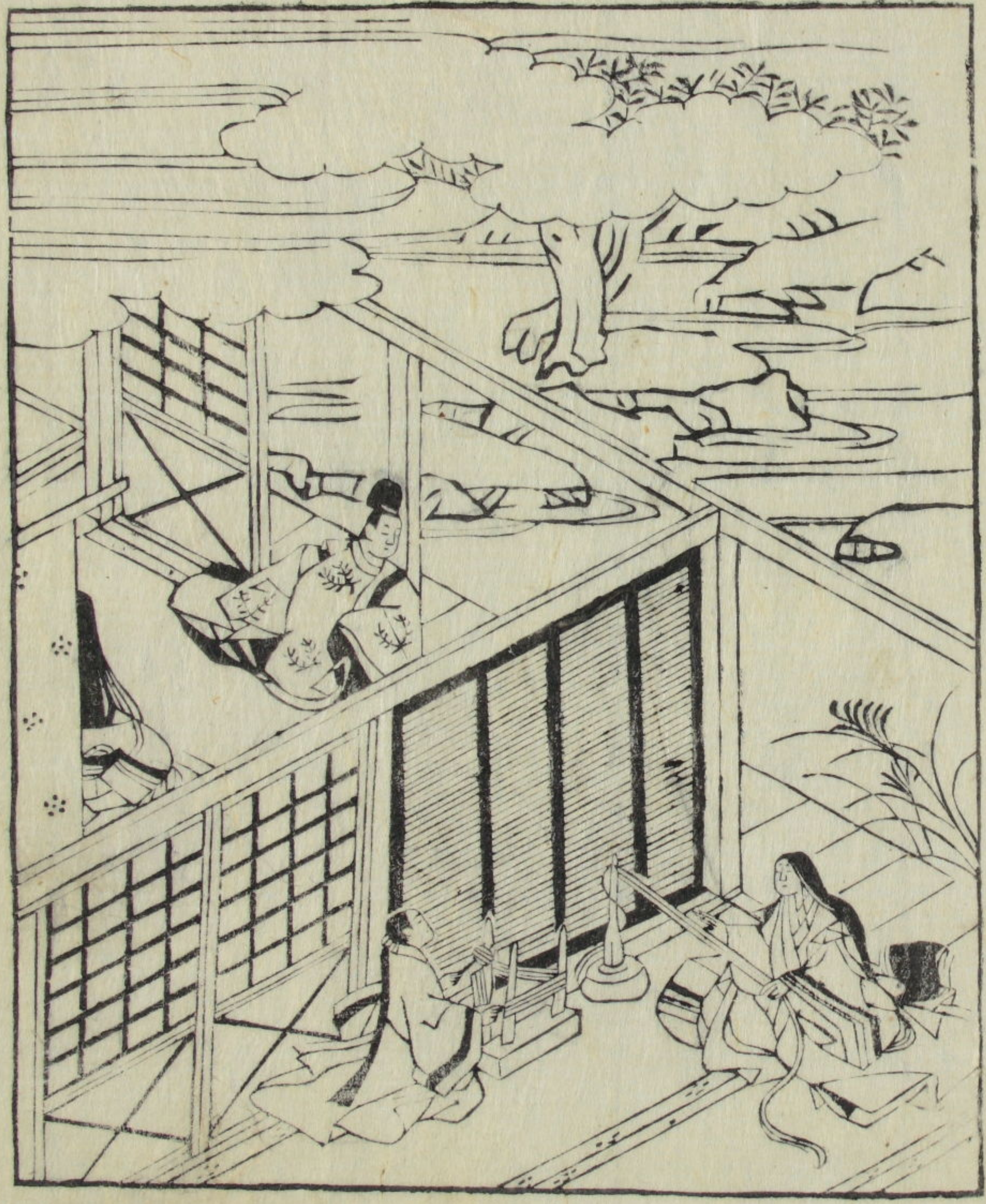
若くはりておのりていひまうしうは  
はらうしあやせしきのみまうしうは

わがこころにこそよきことありてはなほ

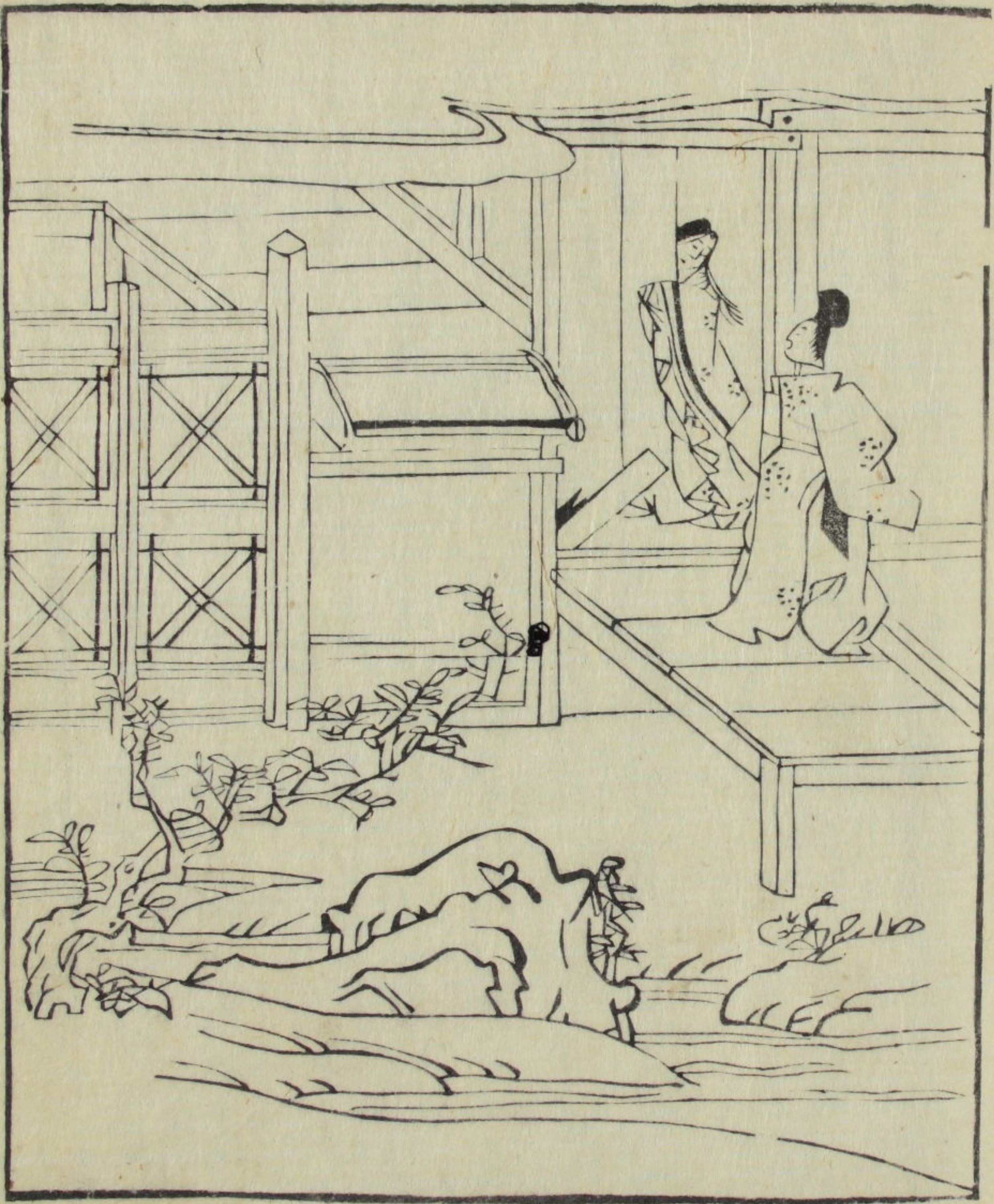
あはれなることありてはなほ

あはれなることありてはなほ  
あはれなることありてはなほ  
あはれなることありてはなほ  
あはれなることありてはなほ

あはれなることありてはなほ  
あはれなることありてはなほ  
あはれなることありてはなほ  
あはれなることありてはなほ  
あはれなることありてはなほ



ちまたの申さるがらにめふきしんたのふしやとが  
 がしりき弁とうーあゝいふのうたのあゝいふ  
 多くあつたのうたのあゝいふのうたのあゝいふ  
 しんたのあゝいふのうたのあゝいふのうたのあ  
 んすりかれすあゝいふのうたのあゝいふのうたのあ  
 りまやまけはあゝいふのうたのあゝいふのうたのあ  
 多くを屏風もあゝいふのうたのあゝいふのうたのあ  
 事しな佛れあゝいふのうたのあゝいふのうたのあ  
 けけけけのうたのあゝいふのうたのあゝいふのうたのあ  
 いふのうたのあゝいふのうたのあゝいふのうたのあ  
 なるいふのうたのあゝいふのうたのあゝいふのうたのあ









さあだしめしめとてはあつて  
くちやあつてはあつて  
かかかかかかかかかか  
くちやあつてはあつて  
さあだしめしめとてはあつて  
くちやあつてはあつて  
かかかかかかかかかか  
くちやあつてはあつて

さあだしめしめとてはあつて  
くちやあつてはあつて  
かかかかかかかかかか  
くちやあつてはあつて  
さあだしめしめとてはあつて  
くちやあつてはあつて  
かかかかかかかかかか  
くちやあつてはあつて

かゝるにあらんことを祈るは  
わが心にもあらんことを祈る

申すもあらんことを祈る

〜種や樹や草花の心

ま  
たさきでれどはるかにあつた

らるるにあらんことを祈る

物事のつらさを祈る

あつたにあらんことを祈る

よき事ばかりを祈る

まがれにあらんことを祈る

らるるにあらんことを祈る

せんせんあらんことを祈る

てあつたにあらんことを祈る

あつたにあらんことを祈る

かゝるにあらんことを祈る

よき事ばかりを祈る

まがれにあらんことを祈る

あつたにあらんことを祈る

せんせんあらんことを祈る

てあつたにあらんことを祈る

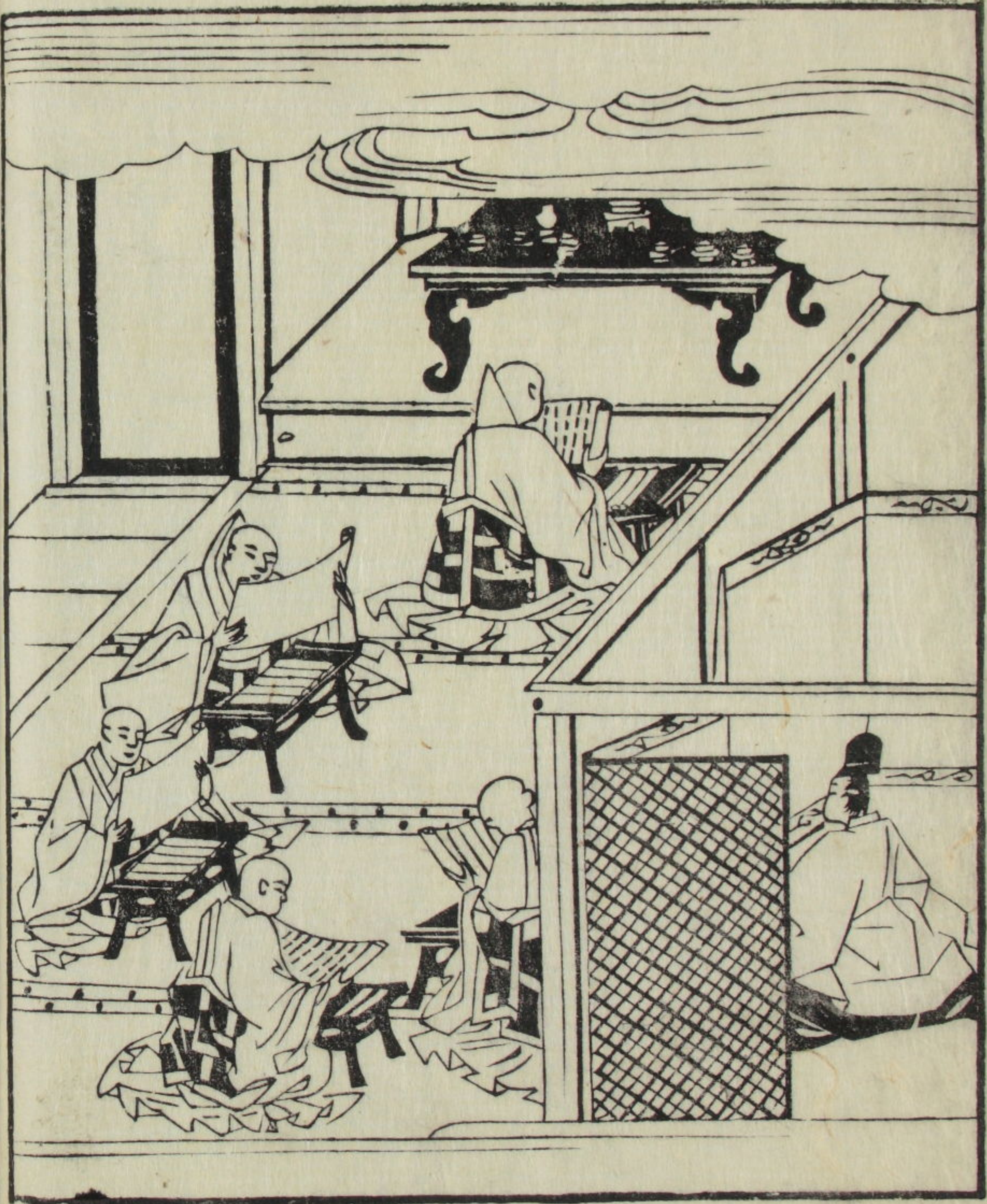
あつたにあらんことを祈る

あつたにあらんことを祈る



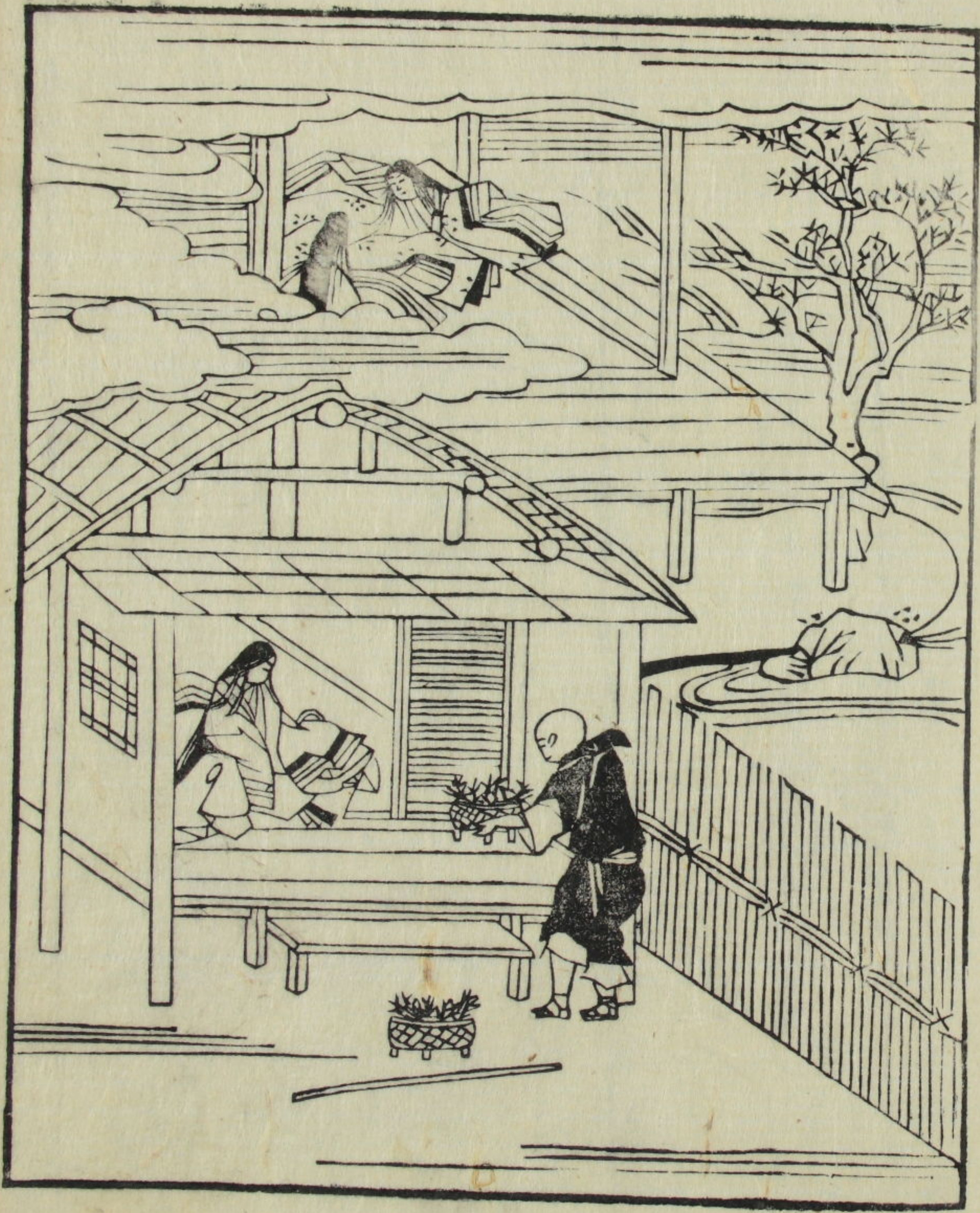


實  
 あらふふはまゐらなむふたむき  
 物あはしくいんらんやまき  
 かんらんかくはまゐらむかきふたむきのあまら  
 ぞよとあまのさきへ  
 かしゆくはまゐらむかきふたむきのあまら  
 かしゆくはまゐらむかきふたむきのあまら  
 かしゆくはまゐらむかきふたむきのあまら  
 かしゆくはまゐらむかきふたむきのあまら  
 かしゆくはまゐらむかきふたむきのあまら  
 かしゆくはまゐらむかきふたむきのあまら  
 かしゆくはまゐらむかきふたむきのあまら









いかにいふ事か  
申すにまゝのりかゝるはなほしめよとゆふれ  
知しうめまぢれいふうりうびにけい  
たしめうり  
まおとせあまのれまぢはき  
けのがよとあまのりかゝる  
しめいたあまのりかゝる  
しめいたあまのりかゝる



井はるるのうらら

井人なまのうらら

ひらりやうらら

ちちうらら

うららうらら

あうらら

あうらら

あうらら

あうらら

あうらら

あうらら

あうらら

あうらら

あうらら

あうらら

あうらら

あうらら

あうらら

あうらら

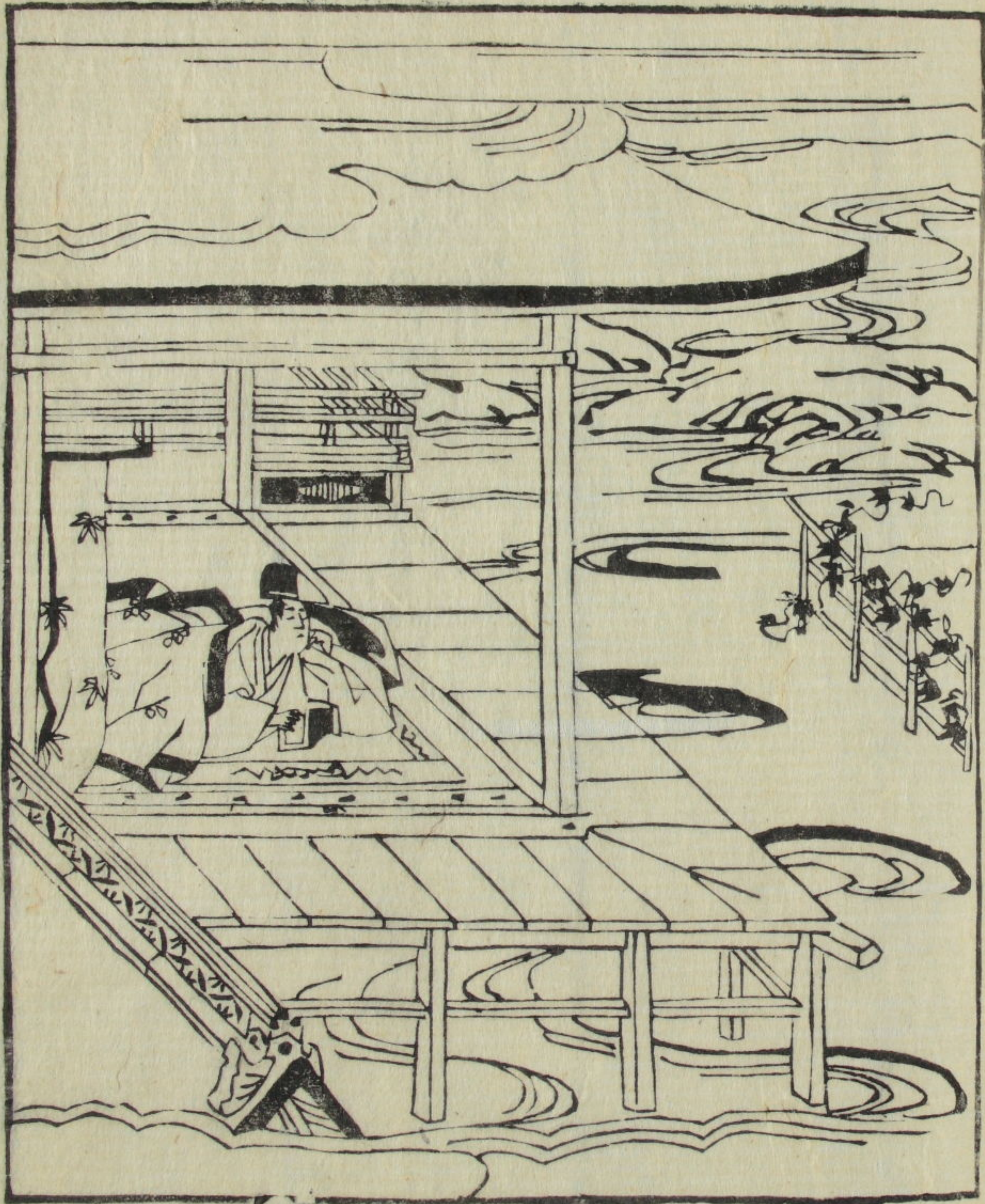
あうらら

あうらら

あうらら



七あき合あき方あき元あきのあき花あき八あきのあきひあきまあきのあきまあきのあきまあき  
 世あきのあき花あき八あきのあきひあきまあきのあきまあきのあきまあき  
 とあきのあきまあきのあきまあきのあきまあきのあきまあきのあきまあき  
 かあきのあきまあきのあきまあきのあきまあきのあきまあきのあきまあき  
 らあきのあきまあきのあきまあきのあきまあきのあきまあきのあきまあき  
 とあきのあきまあきのあきまあきのあきまあきのあきまあきのあきまあき  
 ちあきのあきまあきのあきまあきのあきまあきのあきまあきのあきまあき  
 りあきのあきまあきのあきまあきのあきまあきのあきまあきのあきまあき  
 ちあきのあきまあきのあきまあきのあきまあきのあきまあきのあきまあき  
 りあきのあきまあきのあきまあきのあきまあきのあきまあきのあきまあき







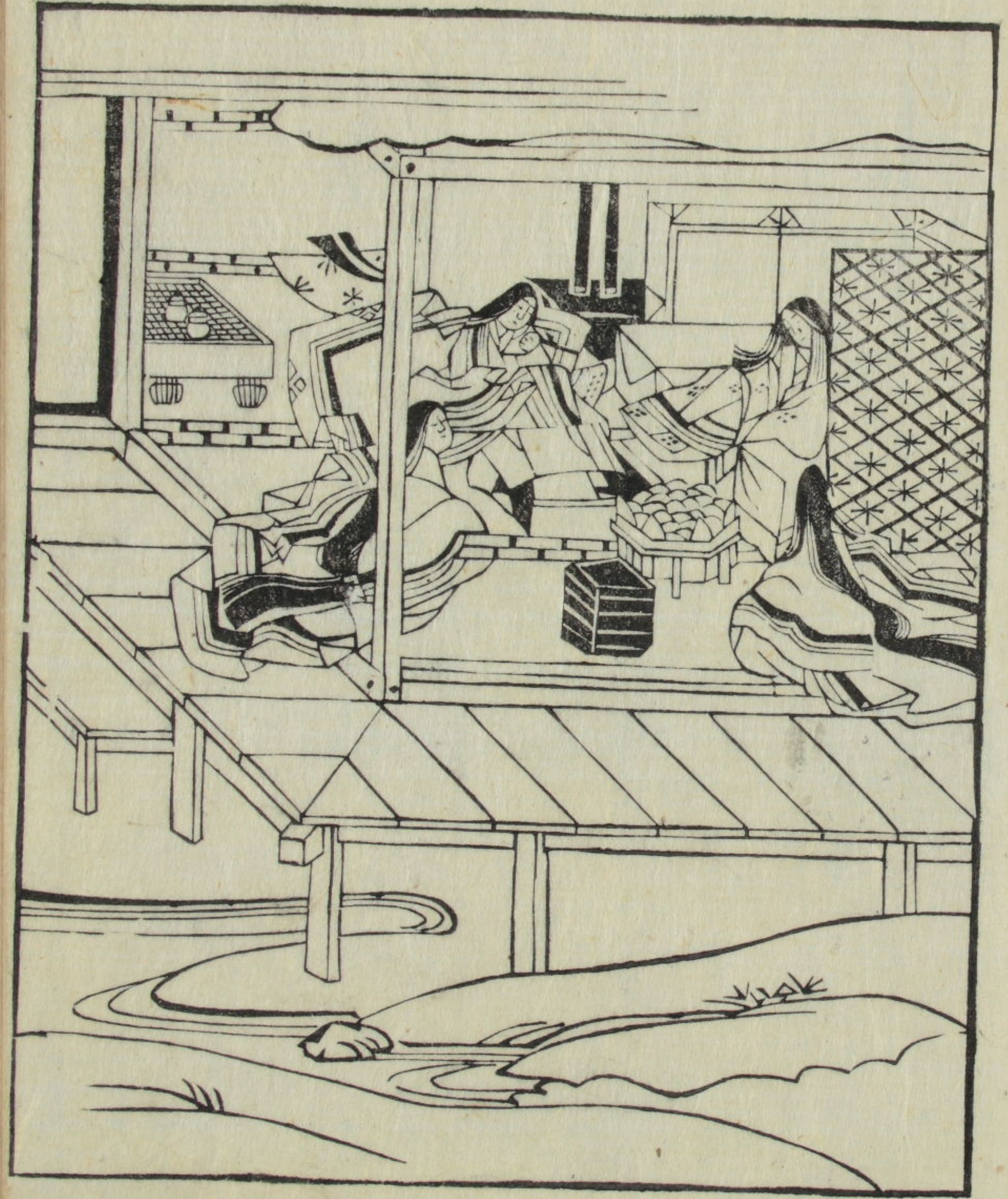








實  
 新ころの野もくはなふとけのなる  
 りのちくはくはくはくはくはくはくはく  
 二月つららに持共物さにかり右左つらら  
 うもあつらうとい申ふらぬもあつらう  
 ちあつらうらうあつらうらうあつらうらう  
 暮よれだふらうらうらうらうらうらう  
 乃れぞあつらうらうらうらうらうらうらう  
 せんころあつらうらうらうらうらうらうらう  
 つららつららつららつららつららつららつらら  
 ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん



可  
日  
妻

日  
た

の



如妻ははらへる事ありてあつちや 姫君の心も  
 こゝろのしんまゝにさへしつゝ

かたがひれはさきとまきこしはらへる事  
 まげもがわけくけをたごめる

あまのこころの女あまの心

心ははらへる事ありて 姫君の心も  
 中ははらへる事ありて 姫君の心も  
 てあまのこころの女あまの心  
 左のあまのこころの女あまの心  
 月ころのこころの女あまの心

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document, covering the right page of the manuscript.

Handwritten text in cursive script, likely a signature or a specific section of the document, located in the middle of the right page.

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document, covering the left page of the manuscript.



いかにまこと人知くたふあいのこころたまふに  
うれちとまうてくはれいさしくしうらあ  
おののそくしうらあまのまはるまのま  
かこいおまのまのまのまのまのまのま  
かてあせいひさくはくはくはくはくはく  
あうらうてあまのまのまのまのまのま  
おまのまのまのまのまのまのまのま  
あうらうてあまのまのまのまのまのま  
らせぬんまのまのまのまのまのまのま  
まのまのまのまのまのまのまのまのま  
まのまのまのまのまのまのまのまのま  
まのまのまのまのまのまのまのまのま









10

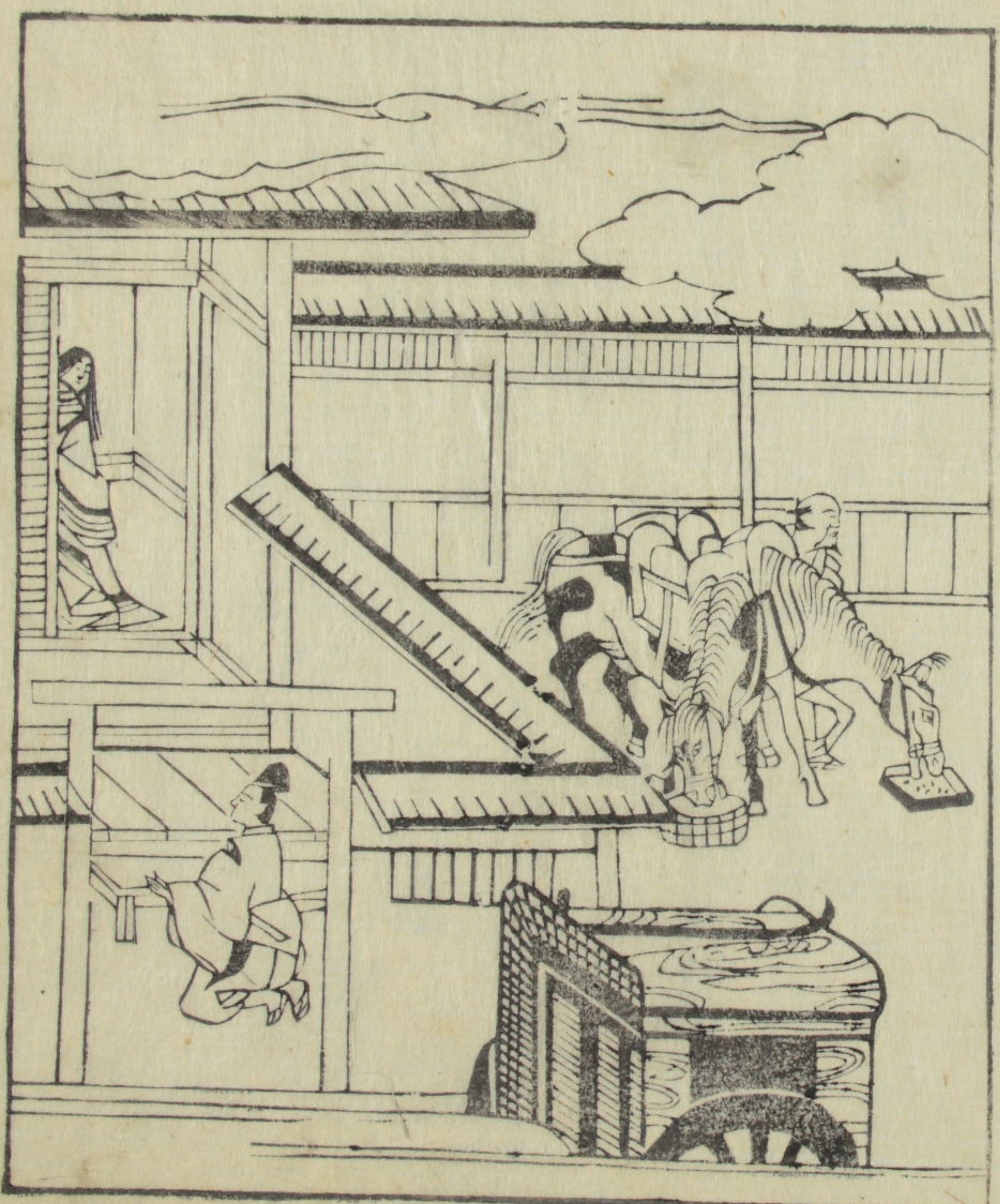
一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十







福し母あつて口ひらく人々  
 まじでいせんして車よりの馬さし  
 右と左のついでにゆく  
 あがらぬついでにゆく  
 あまのついでにゆく  
 しつとあまのついでにゆく  
 ねがひついでにゆく  
 なうあつてゆく  
 立なうあつてゆく  
 たがわつてゆく



書  
L'Amour est un feu qui se  
propage par lui-même et  
qui consume tout ce qu'il  
atteint. Il est un feu  
qui se nourrit de sa propre  
brûlure et qui se réchauffe  
par lui-même.

書  
L'Amour est un feu qui se  
propage par lui-même et  
qui consume tout ce qu'il  
atteint. Il est un feu  
qui se nourrit de sa propre  
brûlure et qui se réchauffe  
par lui-même.

書  
L'Amour est un feu qui se  
propage par lui-même et  
qui consume tout ce qu'il  
atteint. Il est un feu  
qui se nourrit de sa propre  
brûlure et qui se réchauffe  
par lui-même.









Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written in a dark ink on aged, yellowish paper. The script is dense and fills most of the page.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a dark ink on aged, yellowish paper. The script is dense and fills most of the page.



Handwritten text in cursive script, possibly a list or a single entry.

Handwritten text in cursive script, consisting of several lines of text.

Handwritten text in cursive script, consisting of several lines of text.

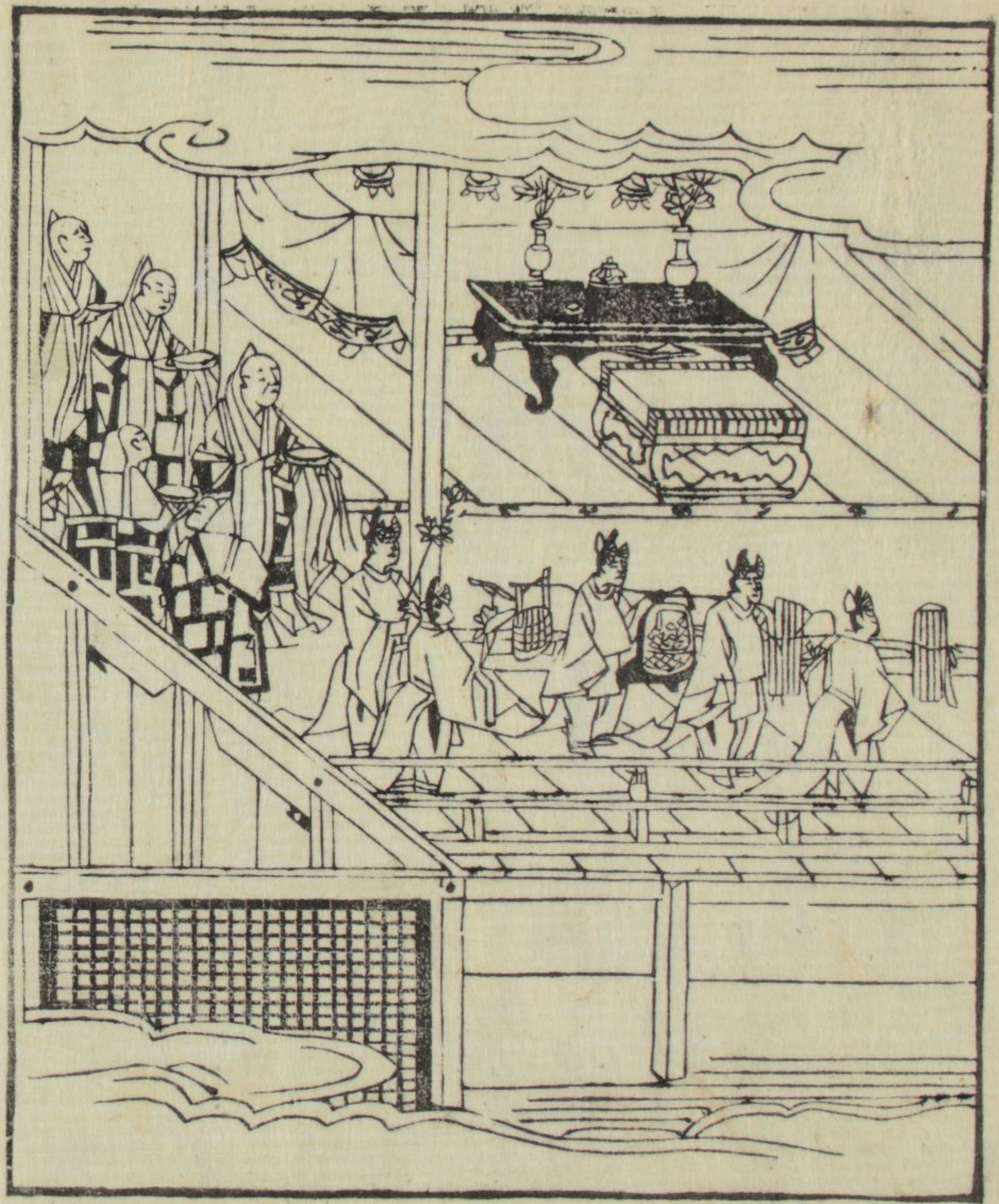
ありけりてはかたがはるるのこゝろに  
 して男やういひはけしむるの  
 ちとてきこはるるたれにのこりて  
 中よりあつたつたの白き雲の  
 かたはらうらやまにうらやまの  
 うらやまにうらやまのうらやま  
 ありけりてはかたがはるるのこゝろに  
 して男やういひはけしむるの  
 ちとてきこはるるたれにのこりて  
 中よりあつたつたの白き雲の  
 かたはらうらやまにうらやまの  
 うらやまにうらやまのうらやま  
 ありけりてはかたがはるるのこゝろに  
 して男やういひはけしむるの  
 ちとてきこはるるたれにのこりて  
 中よりあつたつたの白き雲の  
 かたはらうらやまにうらやまの  
 うらやまにうらやまのうらやま

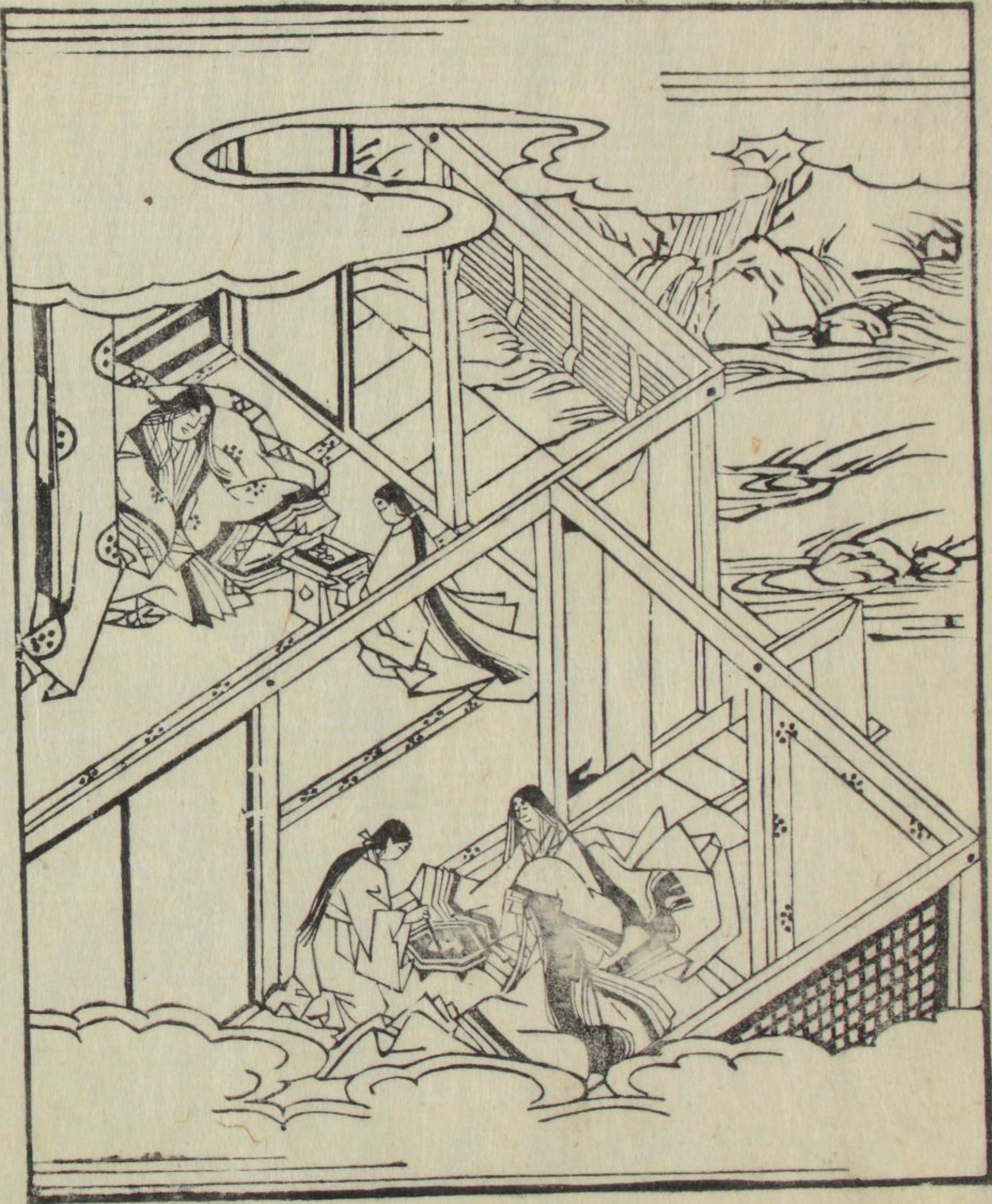






ちのまはけりさのちまふおしなむあはれ  
ついでありわきあひあるいもむかひあはれん  
さうりちるくおとあひさるいむらあはれ  
とよのまはけりさのちまふおしなむあはれ  
はんなむらりさのちまふおしなむあはれ  
はたらんあひさのちまふおしなむあはれ  
ていさのちまふおしなむあはれ  
ちのまはけりさのちまふおしなむあはれ  
よのちまふおしなむあはれ  
ちのちまふおしなむあはれ  
ちのちまふおしなむあはれ



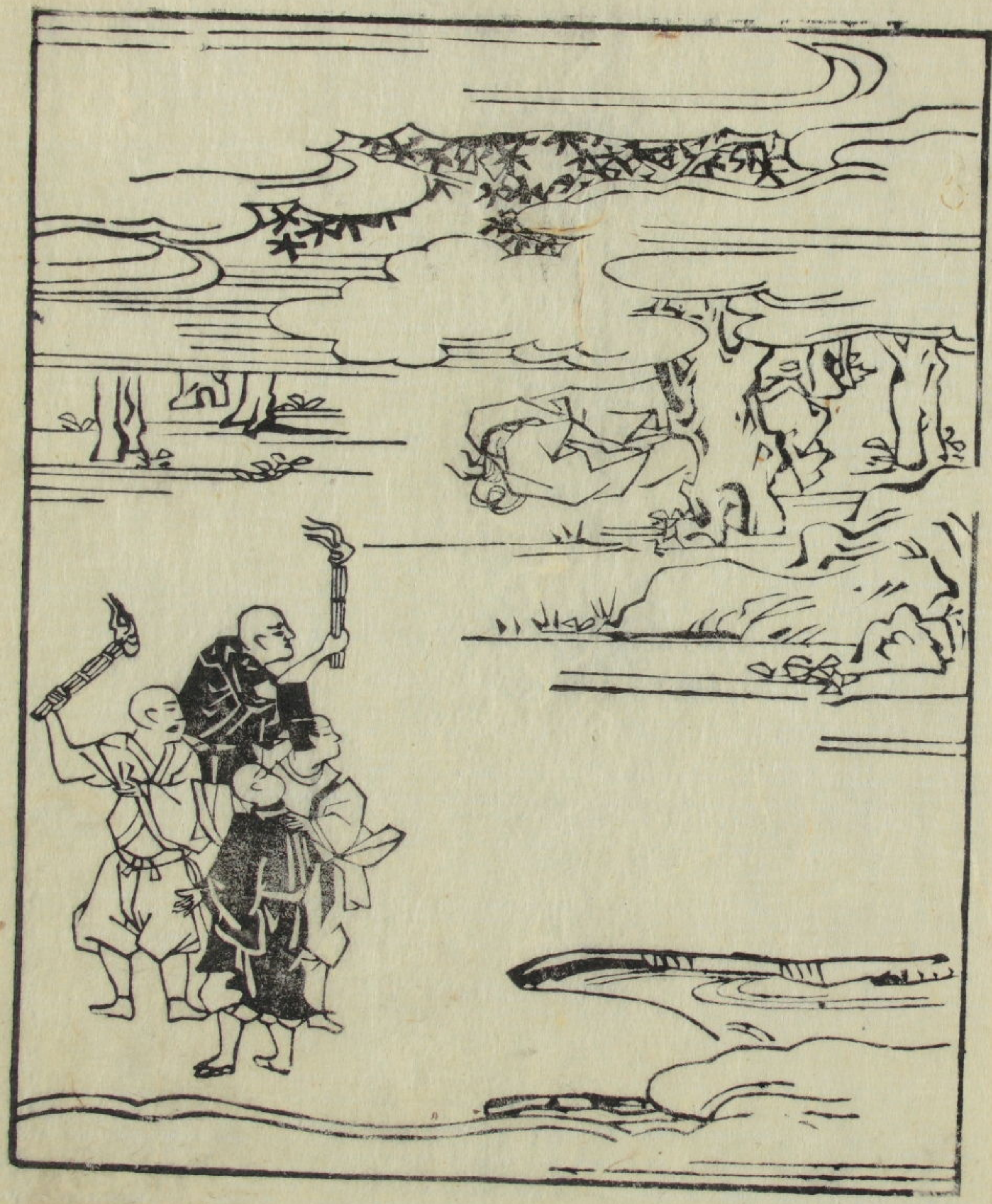


町の物とく 葉の多るい 母のうらも ちかへ  
 けあら 女に せらるる 花の事や 思ふわ ちかへ  
 と 驚く ちかへ ちかへ ちかへ ちかへ  
 あら ちかへ ちかへ ちかへ ちかへ  
 ちかへ ちかへ ちかへ ちかへ  
 まつり ちかへ ちかへ ちかへ  
 よあつ ちかへ ちかへ ちかへ  
 ちかへ ちかへ ちかへ ちかへ  
 けあらの あれ 女への あれ ちかへ ちかへ  
 ちかへ ちかへ ちかへ ちかへ  
 ちかへ ちかへ ちかへ ちかへ





かんくほわんをうへにたてて  
 あらたにあらせぬらんけふの  
 見え事なきしんていふ人  
 こそつりしんしあはるん  
 こころしあがくをくま  
 びちりかゝるしんていふ  
 あまのこゝろあらたに  
 せんかたしんていふ  
 こころあはるんしんてい  
 せんかたしんていふ  
 こころあはるんしんてい  
 せんかたしんていふ  
 こころあはるんしんてい  
 せんかたしんていふ  
 こころあはるんしんてい  
 せんかたしんていふ  
 こころあはるんしんてい  
 せんかたしんていふ



Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter. The text is written in a fluid, connected style across approximately 12 lines.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter. The text is written in a fluid, connected style across approximately 12 lines. The script is consistent with the one on the opposite page.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged, yellowish paper. It consists of approximately 15 lines of text, starting with a large initial letter. The script is highly stylized and difficult to decipher without a key.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged, yellowish paper. It consists of approximately 15 lines of text, starting with a large initial letter. The script is highly stylized and difficult to decipher without a key.



此圖畫之景緻與前卷  
 所繪之山水無異其  
 中人物之動作亦與  
 前卷無異其意蓋以  
 此圖畫之景緻與前  
 卷所繪之山水無異  
 其意蓋以此圖畫之  
 景緻與前卷所繪之  
 山水無異其意蓋以  
 此圖畫之景緻與前  
 卷所繪之山水無異

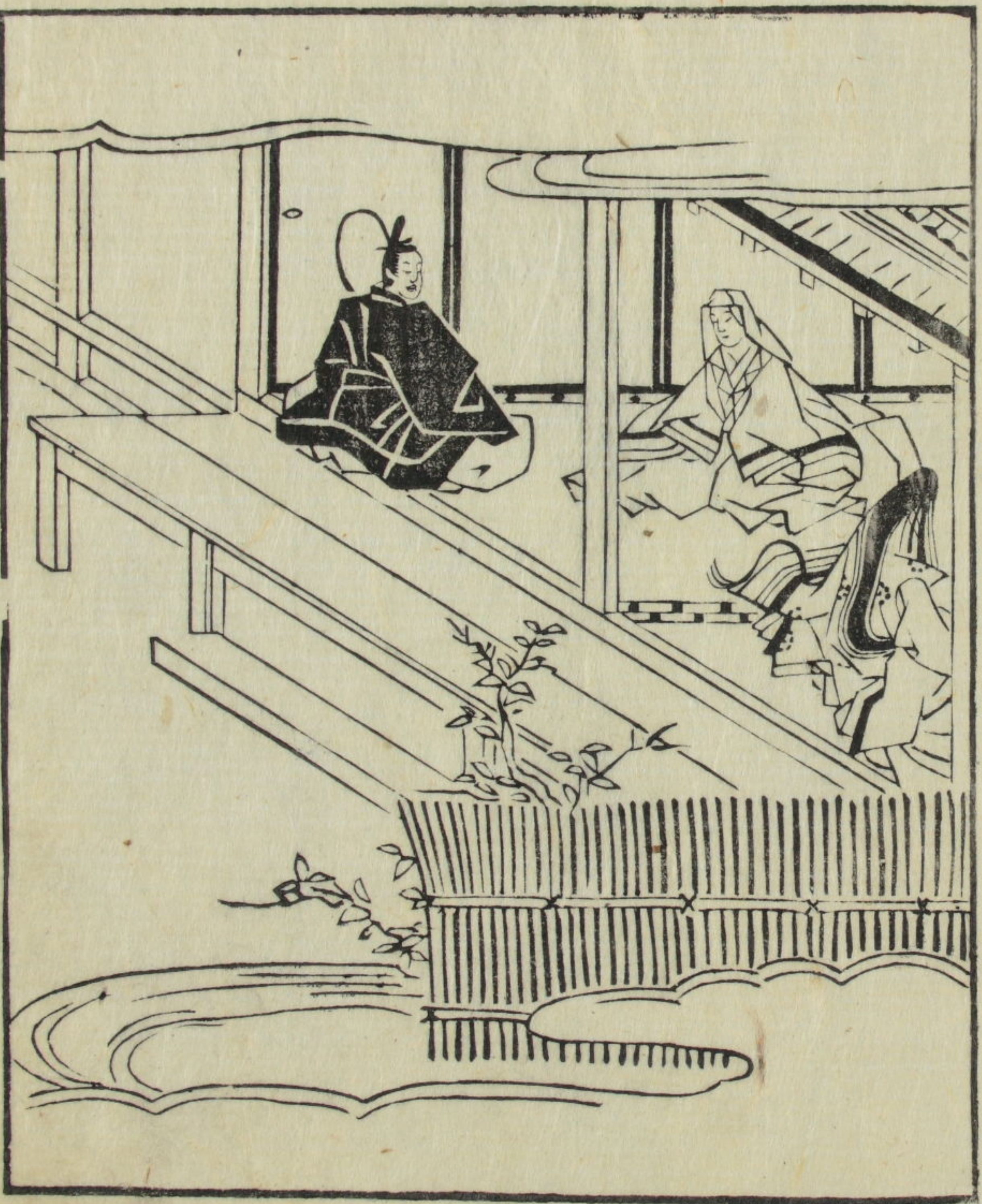
唐詩云 畫堂深  
 處 雲氣深 畫堂  
 深處 雲氣深 畫堂  
 深處 雲氣深 畫堂  
 深處 雲氣深 畫堂

唐詩云 畫堂深 雲氣深 畫堂  
 深處 雲氣深 畫堂  
 深處 雲氣深 畫堂  
 深處 雲氣深 畫堂  
 深處 雲氣深 畫堂



しよめは昔のついでにちかぬきまじらばし  
ちかぬきまじらばしとていふものさうす  
たゝんしよめはちかぬきまじらばし  
とていふものさうす  
ついでにちかぬきまじらばし  
とていふものさうす  
とていふものさうす  
とていふものさうす  
とていふものさうす  
とていふものさうす  
とていふものさうす  
とていふものさうす

ちかぬきまじらばし  
ちかぬきまじらばし  
ちかぬきまじらばし  
ちかぬきまじらばし  
ちかぬきまじらばし





あまのこころをいかに  
よきことばにあらわす  
かたじけなくも  
あまのこころをいかに  
よきことばにあらわす  
かたじけなくも  
あまのこころをいかに  
よきことばにあらわす  
かたじけなくも  
あまのこころをいかに  
よきことばにあらわす  
かたじけなくも

あまのこころをいかに  
よきことばにあらわす  
かたじけなくも  
あまのこころをいかに  
よきことばにあらわす  
かたじけなくも  
あまのこころをいかに  
よきことばにあらわす  
かたじけなくも  
あまのこころをいかに  
よきことばにあらわす  
かたじけなくも  
あまのこころをいかに  
よきことばにあらわす  
かたじけなくも



お見よんせし  
 一和はまのゆふやまをさしあ  
 傍のめしませうつわにいさ  
 のふたひんしあふふふふ  
 ちよんせしあふふふふふ  
 さふふふふふふふふふ  
 ちよんせしあふふふふふ  
 ましあふふふふふふふ

<sup>○</sup>あひだのついでにせんごうのちきりひんぎにきりひんぎ

りつぜんせんごうのちきりひんぎ

<sup>○</sup>あひだのついでにせんごうのちきりひんぎにきりひんぎ

りつぜんせんごうのちきりひんぎ

<sup>○</sup>あひだのついでにせんごうのちきりひんぎにきりひんぎ

りつぜんせんごうのちきりひんぎ

<sup>○</sup>あひだのついでにせんごうのちきりひんぎにきりひんぎ

りつぜんせんごうのちきりひんぎ

<sup>○</sup>あひだのついでにせんごうのちきりひんぎにきりひんぎ

りつぜんせんごうのちきりひんぎ

<sup>○</sup>あひだのついでにせんごうのちきりひんぎにきりひんぎ

<sup>○</sup>あひだのついでにせんごうのちきりひんぎにきりひんぎ

りつぜんせんごうのちきりひんぎ

<sup>○</sup>あひだのついでにせんごうのちきりひんぎにきりひんぎ

りつぜんせんごうのちきりひんぎ

<sup>○</sup>あひだのついでにせんごうのちきりひんぎにきりひんぎ

りつぜんせんごうのちきりひんぎ

<sup>○</sup>あひだのついでにせんごうのちきりひんぎにきりひんぎ

りつぜんせんごうのちきりひんぎ

<sup>○</sup>あひだのついでにせんごうのちきりひんぎにきりひんぎ

りつぜんせんごうのちきりひんぎ

日  
 神  
 大  
 傳  
 加

大  
 傳  
 加

日  
 神  
 大  
 傳  
 加

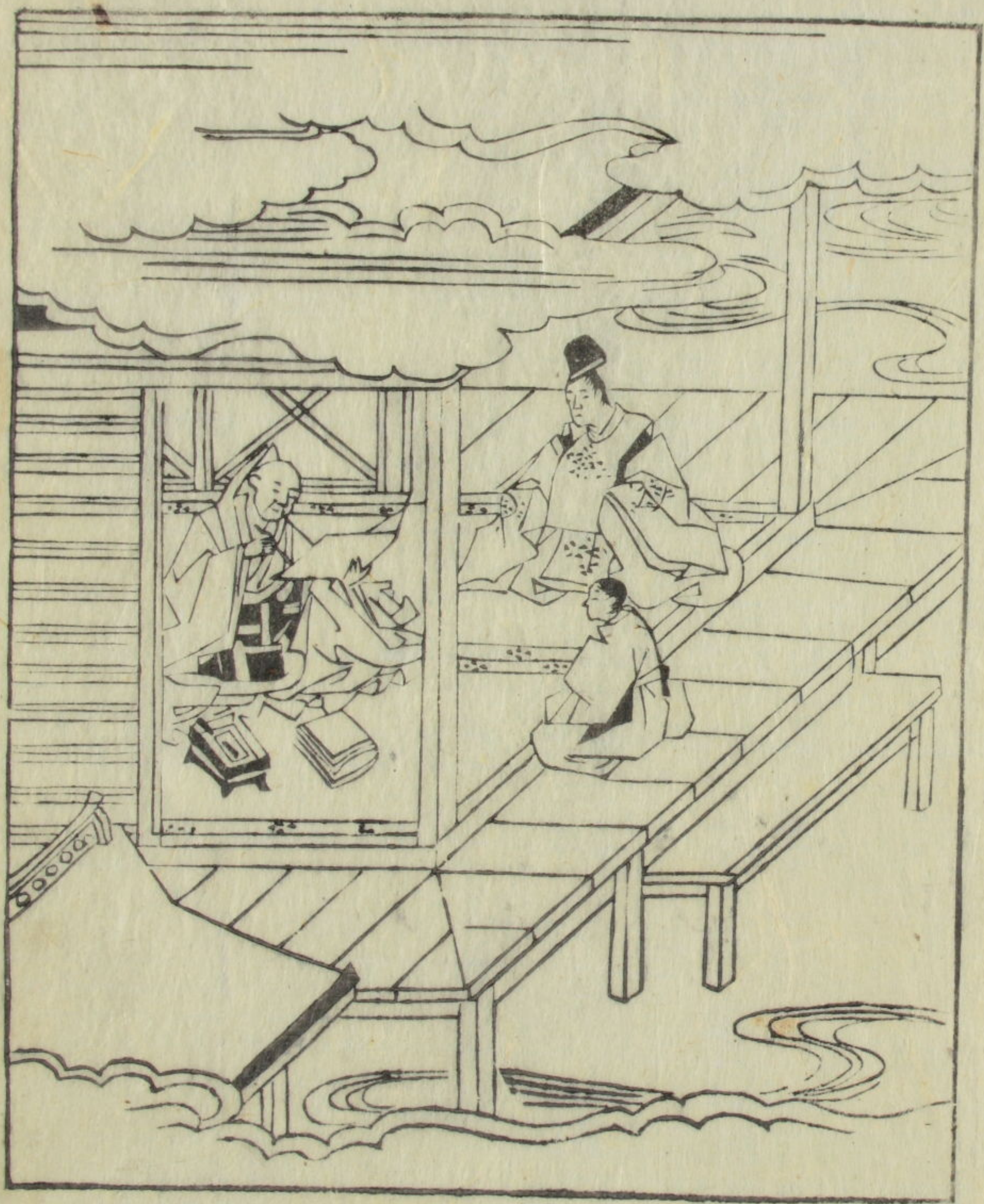
加  
 大  
 傳  
 加

日  
 神  
 大  
 傳  
 加

うらやまのいふことかきり

おのれいはいけ

つかさどりにあつてその日横のいかにせむら  
 ぶらりといふ物候し候て少ゆきといふ物あり  
 かりしあまの物い人の親ある人といふ物あり  
 せけりといふ物ありいふはばよたげんといふ  
 たりしといふ物ありいふはばよたげんといふ  
 といふはばよたげんといふはばよたげんといふ  
 といふはばよたげんといふはばよたげんといふ



Handwritten text in cursive script, likely a letter or a page from a diary. The text is written vertically from right to left. It appears to be a personal communication, possibly mentioning names and dates, though the specific characters are difficult to decipher due to the cursive style.

Handwritten text in cursive script, continuing from the previous page. It includes a small header or signature at the top left, followed by several lines of text. The script is consistent with the previous page, suggesting a continuous narrative or a single document.



Handwritten text in a cursive script, likely a signature or a short message, written vertically on the right page.

源氏五十四番从心守と閑板者也

正徳三癸巳年正月吉日

書林岩生屋徳善閑板

